

麻布大学同窓会広島支部総会

日時 平成 20 年 2 月 17 日(日)14 時

場所 ホテルセンチュリー21 広島

第 39 回になる広島支部総会が和田恭則先生をお迎えして盛会裡に開催された。市場強支部長(昭 1 卒)の挨拶に始まり、田中啓一議長(昭 47 卒)を選出し恒例の流れで進められた。今年は総勢 30 の会となった。例年参加者は 30 名前後であるが、和気藹々とした雰囲気年 1 回のことではあるが学生時代の懐古に浸るときでもある。事業報告、計画、収支決算、予算が承認された。140 名会員を擁する同窓会であるが、もう少し参加してほしいと感じる気がします。前年と比較して会員数・会費納入率も向上しているが同窓意識についても向上を計っていききたいものです。今年は松本泰彦会員(昭 33 卒)がご逝去され会員一同弔意を表わした。今期は役員改選となっていたが大方の人が残留となり承認された。報告事項は同窓会代議委員会への出席報告、中国ブロック会議への出席報告がされた。そして今回の講師である和田恭則教授に「大学の近況と魅力ある大学であるために」というテーマのもと、ご講演いただいた。今の時代価値観の多元化・規制緩和という中で、大学の自由競争は激しさを増しているとのこと、そのためには魅力あるカリキュラムと準備と就職率が重要であると強調された。



麻布大学同窓会広島県支部 平成20年2月17日 於 ホテルセンチュリー21広島

入試区分も多様に活用してチャレンジ精神旺盛でリーダーシップが期待できる、社会的使命を認識した学生を積極的に選抜すべきであると語られた。魅力ある大学であるためにハード面で近代的施設、設備が整えられてきている。又ソフト面では獣医学教育の国際化を目指してカリキュラムを変更した教育、教育組織と教員の充足、研究への取り組みに力を入れているということでした。益々の母校の発展と期待ができる講演をいただき大変有意義な一時でありました。

そして記念撮影を済ませ懇親会へと木下啓三幹事(昭 61 卒)の進行で進められ、新迫保人常任顧問(昭 18 卒)の乾杯で出席会員全員和やかに時間を過ぎていった。今回は会場が変更となって不都合がありはしないかと心配していたが、当ホテルの寛容な対応をいただき事無く盛会裡に進められた。三学会で表彰された高尾信一幹事(昭 59 卒)を紹介したり近況を報告する時間もあり、賑やかに過ぎていった。中締めを同窓会本部副会長白石政美氏(昭 59 卒)がされ、来年度へむけて一同認識を新たにしました。

広島県支部事務局
前田 茂(昭 46 卒)